

テニス競技のプレースタイル、サーブ&ボレーに関する研究 —映像の学習効果について—

古谷 司 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 植田 実

キーワード：映像 理解度 サーブ&ボレー

1. 緒言

1970年代までは、芝コートが主流であったが、1970年代後半からアメリカがハードコートに変更したことからハードコートが広まった。また、ラケットは木製のラケットからチタンやカーボン製のラケットに進化し、ストローク力の優位性が増し、ベースライン付近でプレーする選手が増えた。これらの背景が近年、サーブ&ボレーを行う選手が減少した要因であると考えられる。サーブ&ボレーというプレースタイルはポイントが決まる時間が短く、相手のリターンコースを常に予測し、狙ったコースへ正確にボレーしなければならず、技術の習得に時間を要する。

本研究は、サーブ&ボレーの技術向上と選手の理解度を得るために映像を用いて実験とアンケートを行い、どのような学習効果が得られるかを明確にすることを目的とした。

2. 研究方法

被験者：びわこ成蹊スポーツ大学テニス部5名
方法：実験、映像学習、アンケート調査

ワイドサービスからクロスコートへのバックボレーを行い、デュースサイドのみ球が出るよう設定して行った。サーブからボレーに至るまで一連のプレーをコート上の5箇所不同角度から撮影する。別の日に同じ試技をしてもらった後、5箇所撮影した中の1箇所の映像をPCで被験者に見せ再度試技する。また、試技後に映像による意識の変化や映像からイメージできるプレーなどについてのアンケート調査を行った。

3. 結果と考察

各アングルからの映像を見た後での成功率が最も高かったのは、アングル②と③の平均42%であり、各アングルの成功数の伸び率における差が最も大きかったのは、アングル①と③の組み合わせで、差は平均±18%であった。

今回の研究結果ではアングル③の映像を用いることで最も学習効果が得られる可能性があることが示され、サーブ&ボレーの技術向上や理解度を得るには、ボレーをする位置に一番近いアングルで撮影すると効果的であることがわかった。

4. まとめ

サーブ&ボレーという一つのプレースタイルを確立するためには相当な時間を要すると感じたが、サーブとボレーの技術が上がることは選手のプレーの幅が広がることにつながり、時間を費やす価値があると考えられる。また、時間、気候、気温などの条件を同じにできなかったことや上方向からの撮影や様々な角度からの撮影、3Dカメラを用いての撮影などを今後の課題としていきたい。

5. 参考文献

- 1) 鈴木貴男(2008)「試合に勝つテニス 鈴木貴男のサーブ&ボレーレッスン」実業之日本社
- 2) 武田薫(2007)「サーブ&ボレーはなぜ消えたのか ～テニスに見る時代の欲望～」テニスボールマガジン社